

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 相川中学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 亀井敏昭

学校教育目標

学校経営の方針

自立・共生・工夫
～豊かな心と学ぶ意欲を持った生徒の育成～

学校としての教育の普遍的な責務を継承し、生徒の実態を踏まえた指導内容と指導方法の改善を進めるとともに、これからの未来を切り開いていく生徒に「豊かな心」「学ぶ意欲」「生きる力」を育む。

今年度の重点目標

- ・仲間と共に磨き合う活動の充実
- ・安心、安全な学校づくり
- ・地域との連携の推進

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
<p>仲間とともに磨きあう活動の充実</p> <p>・基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力、さらに学びに向かう姿勢・人間力等の育成のバランスを心がけ、主体的・対話的で深い学びとなる授業を積極的に取り入れる等、授業の工夫改善を進める。</p> <p>・自他を認め、支持的風土の醸成を図るとともに、対人関係調整力の育成に努める。</p> <p>・学習指導要領に基づき、「考え、議論する道徳」への質の向上を図るとともに、生徒の学びを励ますための適切な評価に取り組む。</p>	1・2・3	<p>・各教科の「年間計画」に基づいた指導を行い、学力向上プロジェクトシートを活用し指導の工夫を行った。また、数学科、英語科、理科においてチームティーチングの授業を実施した。</p> <p>・タブレット等ICT機器を活用し、生徒が主体的に学びに向かえる授業の工夫に努めた。</p> <p>・元気アップスクール推進事業による体験授業、学カステップアップ支援員等による補修、授業支援を実施した。</p> <p>・校内研究「適切な評価決定にむけて」を推進し、適切な評価に努めた。</p>	<p>・1学期に学級閉鎖があったが、柔軟に授業を組むことで、進度に大きな遅れはなかった。</p> <p>・数学・英語に関しては、習熟度の差が大きく、複数の教員による教科指導は有効であり、学力不信を原因とする不登校生徒への対応という意味でも有効であると考えます。</p> <p>・授業内でのペアやグループ学習を積極的に取り入れることで、他者の意見を取り入れながら個々の思考力・判断力・表現力を高めることができた。</p> <p>・夏季休業中に職員研修を実施したことで、2学期以降の授業に向けたICT機器の有効活用に生かすことができた。</p> <p>・個別指導により、学級復帰した生徒もいる。生徒自身ではなく、家庭との連携をうまく連携できた好例もある。</p> <p>・指導と評価の一体化を図った授業計画及び評価の方法について、各教科の特性に応じながら、研究を進めることができた。</p>	<p>・これまでの数学・英語における少人数指導やチームティーチングは一定の成果を上げてきている。生徒からは、わからないことをすぐに聞くことができ安心できる」という声が多数上がっていることから、次年度以降も実施していきたい。</p> <p>・一人1台端末や、次年度以降の端末の持ち帰り導入に合わせ、様々な場面で、生徒がより主体的に学習に向かう姿勢が身に付けられるよう、全職員でICTに関するさらなるスキルアップを図りたい。</p> <p>・個に応じた指導を続けることが、不登校未然防止にもつながっていることから、支援員等の人的配慮が得られる限り、今年度同様の支援教育を継続していきたい。</p> <p>・適切な評価方法について、教科の枠を超え学校全体として共通の認識をもって取り組めるよう、研究と研修に努めていきたい。</p>

<p>安心、安全な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスクールとして、共に支え、生活しやすい学校目指す支援教育の視点を持ち、心が落ち着き、安全な学校環境の整備を行うとともに、生徒理解に基づいた学級経営・学年経営を行い、問題の未然防止や早期対応の推進に努める。 ・専門機関と連携しながら一人一人のニーズに応じた支援教育を進めるとともに、その成果を生かした生徒指導・支援の充実を図る。相川中の良さを生かしつつ、常に工夫改善を繰り返し、組織的に取り組む。 	<p>1・2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談前にアンケートを実施し、相談活動を充実させるとともに、個に応じた指導を充実させた。 ・スクールカウンセラーや外部機関と連携し、個に応じた支援を行った。 ・生徒指導・支援部会を定期的に実施して情報を共有し、生徒指導・支援の充実を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期に教育相談を実施しており、学級担任と生徒の人間関係構築の観点から、非常に有効である。今年度は、SCを講師とし、自己肯定感に関するテーマで講演会を実施した。また、学校保健委員会では、睡眠をテーマに心身の健康に向けた活動に取り組んだ。 ・不登校生徒が多い状況の中、生徒支援を進めていくうえで、外部機関の協力は欠かせない。厚木市教育委員会教育相談センターや福祉関係機関などとも連携し対応しているが、全体的な不登校生徒数の減少には至っていない。 ・昨年度までのYPに代わり、学級の状況や個々の取り組みを把握し、よりよい集団作りについて、生徒たち自身で工夫できるよう、学級力アンケートを実施した。結果について情報共有し、生徒支援への一助ともなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SCの講話が好評であったため、次年度も直接生徒の自己肯定感の向上等をテーマに講演会を実施し、不登校未然防止や心身の健康について考える機会を作っていきたい。 ・SCやSSW、厚木市教育委員会や福祉関係機関等との連携を強化し、生徒個々が抱える課題について、様々な角度から支援をしていきたい。 ・学級力アンケートを引き続き実施し、結果の読取り及び活用方法について研修を実施しながら、個々の生徒や集団の中での人間関係の構築に役立てていきたい。
<p>地域との連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や自治会、公民館、青健連等の地域諸団体と情報を共有し、それぞれの教育力を生徒の成長に生かすことを目指して、計画的に取り組む。 ・地域との交流を促し、生徒の自主的・自治的な活動の推進に努める。 ・ESDのテーマを「環境」「人権」として、構成概念のどの部分の理解を深めるものかを理解し、実践に当たる。 	<p>1・2・3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を開催し、学校行事への協力や地域行事への参加について協議を行った。また、厚木市年末清掃等への参加協力を行った。 ・生徒会活動を中心に、各委員会で考案した人権に係る呼びかけや掲示物の作成等の活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も多数の地域連携事業が中止や規模を縮小する形となったが、地域清掃や公民館行事等、いくつか参加できた行事では、参加生徒の成長とともに、地域からの感謝の声が寄せられるなど、子どもたちを地域全体で育てていくという意識が高まった。 ・各委員会が各々の役割としてふさわしい活動を考え、全校生徒へ働きかけた。また、昨年度に引き続き、エコスクールでは、生徒会本部を中心にコンタクトレンズケースの回収に協力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症等の状況を見ながら、段階的に地域行事への参加を促していきたい。 ・学校行事においても、開催方法や運営方法について、地域や生徒の実態に合ったものとなるよう工夫し、地域全体で子どもと関わっていく風土を大切にしていきたい。 ・環境問題や人権課題に対して、生徒会活動、各学級や部活動等、様々な活動場面において、より理解を深め、自ら実践できる人間づくりを推進していく。また、SDGsの取組について、地域との関わりの中においても意識が高められるような機会を作っていきたい。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

◇教育活動の充実について

・令和4年度は、体育大会や文化発表会等の行事が、開催方法を工夫して実施できたことは、生徒や保護者にとっても、大変有意義だったと思われる。

◇地域との協働について

・少しずつではあるが、生徒が地域の行事に参加できる機会が戻ってきている。次年度は、さらに多くの生徒が地域の行事に参加できるよう、条件整備を進めたい。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

生徒・保護者アンケートからも、今年度の教育活動について、おおむね評価できると回答されている。特に生徒の「学校生活を楽しく過ごさせていますか」「授業に意欲的に取り組んでいますか」や「集団生活の中で自主的に物事に取り組み、仲間と協力して班・係・生徒会活動等に参加していますか」では、9割以上の生徒が、とても思う・そう思うと回答している。これらのことから、保護者・地域の方々に協力いただきながら、教職員が真摯に生徒の指導・支援をしてきたと判断できる。次年度も、本校の強みを生かすとともに、課題である不登校生徒の割合が高いことについて、縦・横の連携体制を強化しながら、きめ細かな対応に努めていきたい。